

## 就職とまともな働き方

就職後に若者自身が明るく元気に働き続けるには、社会常識、職務の基礎知識、職務の専門知識、労働知識に経験を加えて、継続してスキルアップを続けて行かねばなりません。この積み重ねを「まともな働き方」とするならば、会社側は「まともな労働時間」「まともな賃金」「まともな雇用環境」「まともな社会保障」が必要となります。過重労働の状態、過労死や疾病、ワーキングプアでは、質の高い労働は期待できないでしょう。社員に人間性を高め、仕事を通じて成長して欲しいと心から願うならば、社員にどう育てて欲しいのか、会社側で明らかにすることです。

社員の側でも、自分たちがもっと有効に働けるようにするには、どのような改善要求を会社に出すと良いのか考えて欲しいものです。

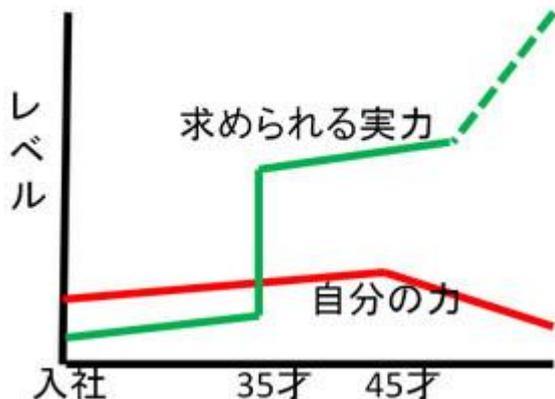
ここで中部大学武田邦彦教授のブログをご紹介します。あなたの周りにこのような人がいないことを期待致します。

[http://takedanet.com/2012/05/35\\_aae4.html](http://takedanet.com/2012/05/35_aae4.html)

### 引用開始＞ 人生の落とし穴:::35才脳死説・・・寂しく昼食を採る人たち

4月に入社した新人は5月になって元気にやっているでしょうか？5月病といって少しなれてくると体調を崩す人もおられるようです。ところで、人生にはいくつかの落とし穴があります。原発を引き受けてお恵みももらい、すっかり働く意欲を失ってその方が没落していくのを見ると、これもまた落とし穴の一つだと思います。

4月に希望に満ちて会社に入った若い人も、そろそろなれてきた頃だと思います。もし若い人がこのブログを読んでおられたら、私の経験を一つお話ししたいと思います。



この図は「35才脳死説」を説明したグラフです。大学を出て就職した直後は、平社員で上司の命令通り動けば良いのですから、楽なものです。大学で習ったことなどほとんど役に立ちません。常識の範囲で立派に仕事をする事が出来ます。

ところが、永久に平社員であることは希で、30才を少し過ぎた頃に、課長や店長など責任ある立場に立ちます。コンビニエンスストアなら、

それまで「ハイ！」と「笑顔」で良かったのに、「何が売れるか？」を的確に判断しないとダメになります。工場では生産設備を、研究では学力が、そして営業では人付き合い、見通しなどが求められます。

しかし、すでに10年もサボってきたので、急に要求レベルが高くなってもそれに応じることが出来ません。そして、自分の力を見つめてみると「とうてい、求められるレベルに到達できない」と感じるのです。

人間は生物ですから、「ダメだ」と思うとその苦痛から逃れるように全力を尽くします。それが「脳死」なのです。あれほど活発だった彼、いつも昼になるとみんなでわいわいと食事を楽しんでいた彼、その彼がひっそりと椅子を立ち、肩をすぼめながら歩き、黙って一人で昼食を採っているのです！

彼が楽になる方法、それは脳の活動を止めて死んだように生きることなのです。だから食事は一気にますぐなり、友人と話しながら食べるなどは苦痛です。私はそのような若い人をよく見てきましたが、平均的には35才程度のように思います。

「35才脳死」、その後に来る50年の人生は灰色で楽しみはほとんど無くなります。ただ愚痴っぽい老人になっていくのを見て、哀しくなります。もし、やがて来るジャンプ・・・平社員から課長へ・・・の時のために準備を怠っていないならば、彼の人生は生き生きと活気に満ちたものになるでしょう。

人生にとって出世というのは意味が無いように思います。それより自分の人生が充実していること、それこそが自分の人生です。だから、少しずつする努力は出世のためではなく、自分の人生のためなのです。

(平成24年5月15日) <引用終了